

会議名	第2回厚木市観光振興推進委員会
日 時	令和8年8月28日（金）10時～11時40分
場 所	アミューあつぎ 6階 市民交流プラザ ルーム606
出席者	出席者 14人 厚木市観光振興推進委員会委員8人 オブザーバー1人（一般社団法人厚木市観光協会専務理事兼事務局長） 事務局5人（産業文化スポーツ部長、商業観光課長、観光振興係長、商業観光課副主幹、商業観光課主任）

会議の経過は次のとおり。

1 開 会 商業観光課長

2 案 件

(1) 第3次厚木市観光振興計画の策定について

資料1 1～2頁及び資料2に基づき説明。

【意見等】

委 員：ホテル業界における観光客数の現状として、あつぎ鮎まつりの開催時期が秋に移行したこともあり、今夏の観光客数は少なく感じた。一方で、スポーツ観戦などのイベントに伴う宿泊客からの問い合わせは多く寄せられている。昨年度までは鮎まつりに出店する関係者の利用が多かったが、コロナ禍を境に宿泊客数は全体的に減少している。

事務局：コロナ禍前からの稼働率の推移はどうか。

委 員：市内のホテル稼働率自体は高い水準にある。例年、鮎まつりの開催日は満室となるなど、大きな変動は見られず高い状態で推移している。ただ、最近の宿泊状況を見ると、純粋な観光目的で厚木市を訪れている方は少なく、他都市へ移動する際の中継地としての宿泊（中継泊）が多い。ファミリー層は微増しているものの、観光目的というよりはスポーツ観戦などのために利用されている。

厚木市はホテル数が比較的多く、大規模なスポーツ大会等の際に利用される方が多い。そのため、ビジネスホテルの宿泊数だけで単純に観光需要を測ることはできない。また、館内にサウナ施設があるため、宿泊を目的としない日帰り利用者も多く、登山やトレイルランの帰りに頻繁にご利用いただいている。

資料1 3頁について説明

【意見等】

委 員：ホテル業界におけるインバウンドの現状として、コロナ禍前に比べると国全体では回復しているものの、厚木市においてはそこまでの伸びは見られない。コロナ前は中国やインドなど様々な国からの受け入れがあり、現在は団体旅行が月に1件程度ある状況である。現在は団体旅行よりも個人旅行が主流であり、厚木市における利用はごくわずかと感じている。

かつては北海道が雪景色を求めて人気を集めていたが、本市としては箱根・鎌倉・

横浜といった神奈川県内の主要観光地へのアクセスが良く、都内に比べて宿泊費がリーズナブルである点をアプローチしてきた。しかし、現在は個人の観光目的で厚木市に宿泊するインバウンドは非常に少なく、明確な理由がなければ厚木市が目的地として選ばれにくい状況にある。一方で、交通の利便性を正しくご理解いただければ、滞在拠点（宿泊場所）として選ばれる見込みはあると考えている。

委員：外国から来られる利用者は、スポーツ関係者や留学生が多い印象である。外国籍の方は目的地まで車で1時間程度の移動であれば近いと感じる感覚を持っており、厚木市はアクセスに優れているため、受入や運用の方法についてさらに検討したほうがよいのではないかな。

委員長：グルメ、アニメ、着物、浴衣が買えるお店、家紋など、外国籍の方々が何に関心を持たれるか予測がつかない部分もあるため、日本的な要素を観光案内として積極的に打ち出すのも良いのではないかな。

委員：「厚木で日本を楽しむ」といったテーマを設定し、打ち出し方を検討してみることで、一定の需要が見込めるかもしれない。

委員：都心では駅前に多くの物や建物があふれており、どこで購入してよいか迷ってしまうことがある。そのため、日本独自のものをわかりやすくピンポイントで集め、厚木のちょうどいい規模感と利便性の良さを活かして取り上げていけたら良いと考えている。

委員：自宅の荷物を整理していた際、桐たんすの中に状態のきれいな着物がたくさん眠っていることに気づいた。おそらく長期にわたって保管されている着物は他にも多くあると思われるため、それらを安価でリユース販売するなど、そうした視点を取り入れるのも面白いのではないかな。

委員：七沢荘においては、外国人旅行客が増加しているように感じている。七沢地区は神様とも繋がりのある地域であり、外国人旅行客に対する高い需要があるのではないかな。

資料1 4頁について説明

【意見等】

委員：旅行の頻度と幸福度に正の相関が見られたことに関連して、我が家では年に1～2回ほど、目的地の場所そのものよりも子どもと一緒に家族皆で行ける場所を基準に選んでいる。

委員：ファミリー層にとって、温泉旅行というイメージはあまり強くない。温泉のほかに子どもが遊べる場所などが併設されていれば、選ばれる理由になるのではないかな。また、子どもが7歳以上になると男女別の入浴制限があるため、宿泊先を選ぶ際はまず家族風呂（貸切風呂）があるかどうかを確認している。

委員：私自身は年に2回ほど旅行をしており、果物が美味しく、温泉や空気も良くて自然が豊かな場所であるため、毎年2週間ほどキャンプ旅行を楽しんでいる。本来に価値があると感じるものであれば、しっかりとお金を落とすものである。厚木市の温泉についても家族の話題に上ることはあるが、市内在住であるため、かえってなかなか行く機会がない。市内の「湯花楽」はいつも混雑しており、外

国籍の方や子連れファミリーを多く見かける。駅から送迎バスも出ており、運用方法も優れていると感じる。一方で、厚木の温泉全体としては、あまりファミリー層で行くイメージがない。七沢や飯山エリアでも、ファミリー層向けの複合的な施設や食事が楽しめる場所があれば、旅行の行先として選ばれるようになるのではないかと考えている。

委員：都内在住の視点から言えば、自然豊かな場所は大変珍しく、とても楽しむことができる。七沢についても自然が豊かでぜひ行ってみたいという声を耳にする。子ども連れで楽しめることやイベントが多くあると良いと考えており、農業体験なども非常に魅力的である。

資料1 5頁について説明

【意見等】

委員：地域資源の磨き上げに関して、現在、飯山地区における温泉は「元湯」のみとなっている。かつて宴会が盛んな時代には花街と呼ばれることもあった。また、飯山観音には高齢の方が多く参拝に訪れている。以前、湘南地域から来たという親子が山歩きの帰路にいるのをお見かけして少しお話をしたところ、日向薬師から大山・丹沢へ向かうコースなどはまだヤマビルが多いという話を聞いた。かつては飯山白山森林公園の桜の広場のあたりでもヤマビルに咬まれることがあったが、整備されてからは全くなくなった。

委員：観光目的だけでなく、ビジネスで訪れた際も、時間があれば近くの神社仏閣に足を運ぶものである。特に外国人は神社仏閣に非常に興味を持っているため、しっかりと案内してほしい。

金剛寺には重要文化財があり、昔から参道の左側には大師堂がある。その大師堂の周りには「百体地藏」があるが、現在、屋根が崩れて地藏尊が端に寄せられている状態である。金剛寺の本堂に至るまでの道は厚木市道であり、現在その修復の話が出ている。参道には管理者不明の土地があるため、そこを一度金剛寺に返還してもらうことで参道の幅を広げて整備することが可能であり、現在その方向で話を進めているところである。そうすれば見栄えも良くなる。せっかく百体地藏があるのに現状のままではもったいないという声も出ており、参道整備後に改めて配置し直すなどして、そうした歴史的資源も観光客に見てもらえるようにしたいと考えている。

委員：飯山地区はスポーツグラウンドが多い割には、スポーツ大会やイベントが少ない印象がある。企業名（冠）を付けた大会やイベントを開催できれば資金調達も可能ではないか。家族連れで訪れる方も多く、応援に駆けつけたりお土産を購入したりすることも予想される。お祭りだけでなく、こうしたスポーツイベントも誘客に必要ではないかと考える。

委員：定点ガイドとして飯山観音で活動し、訪れたお客様に案内を行っているが、御朱印を目的に来訪される方も多い。しかし、せっかく県外から来ているにもかかわらず、食事をする場所や周辺で観光できる場所が少ないため、非常にもったいなく感じている。三十三観音を巡るバスツアーなども実施されている。

委員長：文化財の保護と活用について、現在の観光計画の中には文化財保護の視点が十分に盛り込まれていない。観光と文化財が密接に結びつき、観光のための整備を進めることが一つの方向性としてあるのではないか。文化財保護と同じカテゴリーの中で、観光資源として活用できるような見直しを行うべきである。

事務局：当たり前のように見えているものであっても、興味関心のある人にとっては非常に魅力的に映るものであり、どのようなものでも観光資源となりうる好事例であると考えている。ご意見を踏まえ、資源の磨き上げや発掘の観点からしっかりと整理させていただく。

資料1 6～8頁について説明

【意見等】

委員：交通事業者としての交通アクセスや受入環境の整備に関して、神奈川中央交通としては、現状のままでは観光施策に参画する余地を見出しにくい状況にある。飯山・七沢エリアにおいては路線バスの減便が進んでおり、現状ではバスを利用して訪れるような状況になっておらず、移動手段が限られている。路線を維持・運行していくためには、観光面などでしっかりと集客を図っていただき、バスを増便できるような体制を整えていただく必要がある。地域の方々にも人を呼び込んでいただく仕組みができなければ、交通事業者として参画することが難しい。また、スポーツイベントなどによる集客については、我々のような一般市民の生活の足を担うバス会社よりも、シティアksesなどが日本体育大学やバスケットボールチーム等のスポーツチームの輸送を手がけている実績がある。そうした事業者や関係者を参画させるのも一つの方法ではないかと感じている。

委員：飯山エリアは市街化調整区域となっており、人が住んでいない状況がある。この指定を外していただければ、広々としているにもかかわらず家を建てることができない現状が改善されるのではないかと。明確にどのような目的があってこの指定区域にしているのかよくわからない。また、田畑のために指定区域にしている場所であっても、実際には荒れ果てている土地も多く見受けられる。

事務局：厚木市全体としては、約3分の2が市街化調整区域で、3分の1が市街化区域という構成になっている。そのような制約がある中でも市としての機能を継続・維持していくためには、それぞれの地域に拠点（核）を設け、バス路線などの生活機能がある程度集中的に維持していく方針で取り組んでいる。こうした考え方のもと、全庁的な課題として検討を進めていくべきものと考えている。

(2) 観光振興に係る意見交換について

【意見等】

委員：基本方針Ⅱの基本施策3の市内5大学との連携と産業観光の推進について、食品衛生協会に関わっており、サイエンスカフェという催しを開催し、各大学の先生を招いて食にまつわる講義を行っている。毎回満席になるほど人気があり、主婦層をはじめ、食は誰でも関心が高い分野であると感じている。観光に携わる先生方からもお知恵をいただきながら、さまざまなイベントや取り組みを展開してい

くのも良いのではないか。

委員：基本方針Ⅲについて、まもなく「キリコのタクト」の映画が公開される予定であるが、同作品のヒットにより、ロケ地巡りなどの観光資源としてのプロモーションが展開できるのではないかと考えている。まずは皆で映画を鑑賞するなどして作品を盛り上げていくことが前提となるが、ロケ地巡り等を通じてさまざまな場所をご紹介いただくことで、『厚木に行ってみたい』と思う人が増え、厚木市を知っていただく良い機会が増加するのではないか。

委員：地方からのホテル宿泊者も映画のポスターによく関心を持っているように見える。県外の方にも厚木を知ってもらえる良い機会となると思う。

4 その他

事務連絡

事務局：いただいたご意見を反映させ、骨組みを精査していく。その骨組みに肉付けをしたものを次の推進委員会の方で皆様に諮っていく。

5 閉 会